

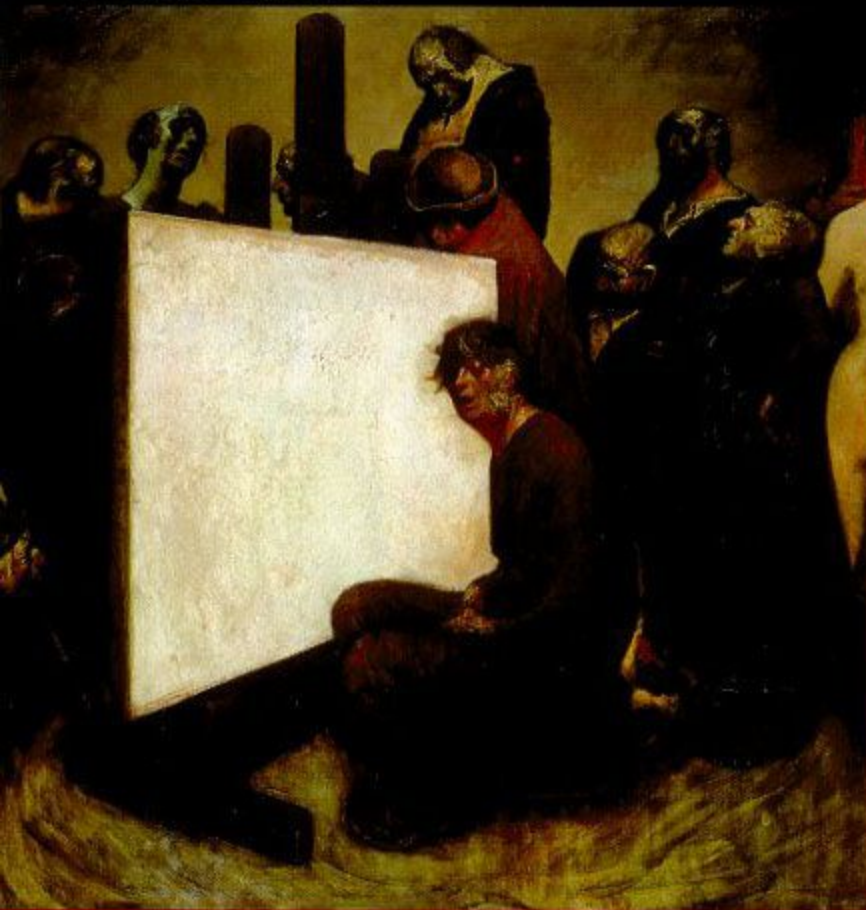
1928-85
Rey Camoy

Koiso Memorial Museum of Art
2006.1.28-3.26

特別展

平成18年1月28日[土] ▶ 3月26日[日]

※平成18年2月29日より一部作品が替わります



＜1982年 迄＞ 石川町立美術館蔵

没後20年

鴨

居
玲
展

(展示室2・3)

私の話を聞いてくれ

- 開館時間 午前10時～午後5時まで(入館は4時半まで)
- 休館日 毎週月曜日
- 入館料 一般800(600)円、高大生600(400)円、小中生400(200)円
※()内は20名以上の団体
シルバー400円(65歳以上で神戸市すこやか手帳所持者の方)
- 主催 神戸市立小磯記念美術館、神戸新聞社
- 後援 NHK神戸放送局、サンテレビジョン、ラジオ関西
- 協力 財団法人日勤美術財団

神戸市立小磯記念美術館

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5-7 TEL.078-857-5880

http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso_museum/

同時開催

小磯良平
作品選Ⅱ

油彩・素描
(展示室1)



没後
20年

鴨居 玲 展

—私の話を聞いてくれ—

洋画家・鴨居玲は、人間の孤独、不安、運命、そして生命とは何かを、厳しい眼差しで見つめ、鋭く問い続けました。その没後20年を迎えるにあたり、神戸市立小磯記念美術館では、「特別展 没後20年 鴨居玲展 —私の話を聞いてくれ—」を開催します。

鴨居玲(1928-85)は、北國毎日新聞記者であった父鶴の赴任地・金沢(一説によると大阪)で生まれました。そして金沢、ソウルで小学校時代を過ごした後、大阪に移り、1940(昭和15)年、関西学院中学部に入学します。その後、再び金沢に転居し、戦後の1946(昭和21)年には、金沢美術工芸専門学校に第一期生として入学、宮本三郎に師事し、才能を発揮しました。1952(昭和27)年の西宮への転居以降は、神戸やその近郊を拠点にし、田村孝之介が率いる六甲洋画研究所や神戸・二協会などを中心に制作活動を行います。そして1969(昭和44)年、具象絵画の登竜門である安井賞を受賞、一躍、全国的な脚光を浴びます。

鴨居はしばしば、新天地を求めてパリ、南米、スペインなど海外に中長期滞在しつつも、画家として歩み出してから1985(昭和60)年に急逝するまで、ほぼ一貫して国内では神戸を生活と創作の拠点にした画家でした。

本展は、石川県立美術館、当館、ひろしま美術館、長崎県美術館をまわる全国巡回展で、自己の内面を抉り出すように描かれた鴨居作品の、代表的な110点余を展覧し、その芸術世界の軌跡をたどります。鴨居芸術が我々の心に訴えかけるものは何なのか、皆様お一人お一人なりに答えを見出していただければ幸いです。



＜月と小人＞1958年



＜静化した祭＞1968年 東京国立近代美術館蔵



＜雷はノックされたジャンネの記憶より＞1970年



＜踊り込入＞1974年



＜教会＞1976年 ひろしま美術館蔵



＜出を持つ(造化前)＞1984年



＜肖像＞1985年

会期中のイベント

講演会

「回想の物語」岡崎/伊藤氏(美術評論家)
3月5日(日)午後2時～ 当館2階絵画学習室にて(定員90名)

美術館大作展5 絵画のきもち

2月4日(土)、25日(土)、3月4日(土)午後1時半～4時
小学1年～中学3年生とその家族対象、各回20名募集
(詳細はお問合せください)

解説会

毎週日曜日(3/5を除く) 午後2時～(30分)当館2階絵画学習室

アトリエ解説

毎日午前11時と午後2時から(約20分間)
※ただし、イベント開催日は変更して行います。

神戸市立小磯記念美術館

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5-7

Tel.078-857-5880

http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiso_museum/

【交通】

JR住吉駅・阪神夤崎駅のりかえ、
六甲ライナー「アイランド北口」駅下車西へ徒歩すぐ
(美術館の地下に市営の有料駐車場があります)

